

# 芦安ファンクラブ通信

第 21 号  
春、夏号

NPO法人  
芦安ファンクラブ  
南アルプス市芦安  
芦安 1589-8  
事務局：(大滝)  
055-288-2531

## 第十二回南アルプス芦安登山教室を実施

五月二十八日(土)、二十九日(日)の二日間、第十二回 南アルプス芦安登山教室に参加した。

一日目の、アンデス地方の民俗音楽の「グループ・パホ」の演奏は、普段民俗音楽に触れる機会がないので、とても充実した時を過ごせた。特に野外で聴いたコンドルは飛んでゆくは今も心に残っている。

研修会は、国土交通省 国土地理院 関東地方測量部の 柴原 充氏が「地図の話」というテーマで、地図のあれこれ、地図を作る、地図つて面白い等、測量と地図についての幅広いお話は、いつも何気なく見ている地図は奥が深く大変な作業を重ねて作られてゆく事に貴重な学習が体験できた。



芝原先生の楽しい地図の研修会

翌日の山行は夜叉神峠峠經由でカンバ平(二六八〇m)へ向かった。  
夜叉神の雄大な自然の中できれいな空気を吸いながら高山植物や山を彩る木々の美しさを満喫しながら、山と深くかかわりあつて生活していた昔の人々やウエストンの歩いた道に改めて感慨が深まる。



グループ・パホの土臭い演奏はみんなを魅了した

三年前に高谷に行く登山道に登った時は、踏み跡はしっかりついているのに、左右から通せんぼしているクマザサをかき分けて登った思い出があるが、今回は、きれいにやぶが刈られ見通しがよくすくく登り易くなっていた。話を聞くと、芦安ファンクラブのメンバーが、歩きやすいように大変な苦勞をして、登山道整備をして

くれたということであった。登山教室を開催するまでの陰の努力を垣間見ながら高谷山につく。



道中は楽しい話題や花の研修で盛り上がった

素晴らしい眺めのはずの高谷山はガスに包まれて視界はまったくきかず、晴れていれば目の前に北岳の雄姿を高々と仰ぐことが出来たのと思いつつながら昼食をとっていると、一瞬だが、ガスの晴れ間にたくさんの雪を残した北岳が現われた。参加者は、一斉に歓喜の声をあげ、この声で疲れも癒され至福の一時が訪れた。  
眺望もさることながら、なんとと言っても、ミツバツジの色の鮮やかさは素晴らしく、付近の新しい緑に見事なアクセントをつけていた。

カンバ平は甲斐駒、鳳凰、白峰三山はもとより、南アルプスの南部の荒川岳、赤石岳まで見渡せ、南アルプス市内でこれ程、山岳景観に恵まれているのは、他には

ないので多くの人々にこの場所を紹介することが、市の観光の発展につながる事を痛感した。  
三段返しの下りはきつかったものの、無事下山することができすばらしい一日を過ごすことができ改めて登山教室の意義を認識することができた。

南アルプス芦安山岳館  
清水秀美 記



白根三山をバックにみんないい顔でパチリ

# 仙丈ヶ岳の自然に触れて

芦安中学校教諭 藤田麻里子

南アルプスをふるさととする自然豊かな芦安中学校で理科の教師として多くのことを生徒とともに学べるのではないかと期待に胸ふくらませ赴任しました。しかし、赴任して三ヶ月目、こんなに早く南アルプスの山に登山できる機会がこうよとは、思ってもみませんでした。しかも、三〇〇〇m級の山に登ろうとは……。学生の頃は、専攻が地質学ということもあり、たびたび山や沢に行く機会はありませんでしたが、それでも三〇〇〇mという山は、わたしにとつてあまり経験する機会のないものでした。それを本校では、三年間で全校生徒3回も登ると聞かされ、中学生のパワーとそれをバックアップすることのできる地域の方々、保護者、先生方の力に驚かされました。そして、今年自分もその一人として参加しなければならぬという立場で、趣味で山に登るときとは違う、責任の重さを強く感じました。また、日頃授業ではなかなかできない自然に直接ふれ、抱かれ、大空のもと何か地球のすばらしさや偉大さを感じる機会にできないかと思いました。そこで、私自身慣れる為と理科的にも何か得ようとして下見にも参加させてもらいました。



小仙丈ヶ岳越しに見える甲斐駒

咲かせているイチヨウランやマイヅルソウなどの多くの花々、厳しい自然のなかで、ニホンカモシカなどの多くの生物が賢明に生きていくという気配を足跡や糞、皮のはがされた木々などから感じることができ、二日間という短い期間でわたし自身楽しみながら、数多くのことを学ぶことができました。

わたし自身が経験したことやふるさとの自然のすばらしさを、生徒に伝えられればと思い、全校理科の授業という場で、清水さんの協力もいただき、下見で見ることができた植物や仙丈ヶ岳の生い立ちなどを生徒と一緒に勉強し、本番に備えることができました。

そして、いよいよ生徒たちと登る当日。多くの保護者の方々、地域の駐在所の方などの参加もいただき、四十名ほどのチームで、清水さんの案内のもと登ることになりました。

生徒は全員参加でした。養護教師の適切なアドバイスのもと、日頃の健康管理や熱射病対策などの準備を行い、登山経験のある教師の指導で何回かの登山練習を積み重ねての今回の生徒全員参加でした。全員で参加できる状態にすることができた生徒自身の意欲と保護者の方々の協力に再度驚かされながら、安全にみんな楽しく登山ができればと願いながら出発しました。



尾根道を余裕で登る生徒達



可憐に咲いていたコイワカガミ

登り始め、日頃体力ない生徒たちが弱音を吐くのはと心配しましたがみんな弱音どころか、元気に歌やしりをしたり、清水さんから教えていただく花の名前を輪唱しながらの楽しい登山の幕開けとなりました。そうして、一日目宿をとる標高二八〇〇m地点の仙丈小屋に全員無事に到着し、その上仙丈小屋では、夕飯までのひととき元気にクイズやネイチャーゲームをして楽しむ余裕もあるほどでした。それでも生徒の底知れぬ力を感じるばかりでした。次の日も、早朝六時出発の仙丈ヶ岳頂上を目指した登山でしたが、少し疲れた様子はあったもののほとんどの生徒が元気に登り始めました。

頂上では、ガスがかかり頂上からの景色を堪能することはできませんでしたが、小仙丈ヶ岳へむかって峰をわたる頃には、生徒たちの努力をたたえるかのように晴れ渡り、富士山も見ることができるとなりました。そのころ、遅れて出発した生徒と教頭先生、わたしのチームも本体に追いつき、小仙丈ヶ岳では、みんなで記念写真を撮ることができ、生徒たちも全員で達成できたことを喜んでいました。その後、安全に全員無事、下山することができました。そのときの生徒たちの澄んだ笑顔が、今でも昨日のことのように思い出します。本当に充実した、実りの多い登山ができたのだなとしみじみ感じる笑顔でした。



鮮やかな紫のオヤマノエンドウ

一日間という短いようで長い登山の間、雄大な自然のなか、生徒たちはお互いを気遣い、体力の弱い友人のペースに合わせながら、みんなで協力して登山を成し遂げました。このことは、生徒を始め、教師・参加者全員の一生の宝として心にのこることでしよう。  
 このような経験を生徒と一緒にできたことに、保護者の方々、清水さんをはじめとする地域の方々の大変なご協力のたまものに本当に感謝するばかりです。今後、このような伝統が大切にされ、このようなすばらしい地域の輪が末永く続けばと願います。



**南アルプス開山祭が2年ぶりに現地広河原で開催。**

夏山シーズンの幕開けを告げる南アルプス開山祭が、七月二日午前十時から広河原アルペンプラザ広場で行われた。昨年、一昨年は南アルプス林道通行規制の関係で麓のこだま公園で行われたが、今年はシーズン始めの規制解除により本来の北岳を仰ぎながらの開山祭となった。

多くの来賓の出席と関係者の参加の中、まず石川市長から「マイカー規制も2年目を迎えた、入山者も環境配慮への規制に好意的であり、支持と協力を頂いている。南アルプス観光を市の基盤と位置付け、自然の美しさに癒やしを求めて訪れる観光客のニーズに応えていきたい。」との開山の挨拶があった。



芦安中学生による「北岳の歌」や「雪山賛歌」の合唱の後、先駆者をつたえ、遭難者の霊を鎮める献花が参加者全員の手で手向けられた。  
 勇壮な夜叉神太鼓の演奏の後、恒例の「つる払い」の儀式が行われた。  
 案内人には、今年の芦安地区会長伊東今朝次氏他二名が扮し、勢いよくつるを払い、今年の安全登山を祈願した。参加者はつるをくぐり、自らの安全登山を願った後、芦安そばの会「甲斐ヶ峰庵」による手打ちそばを味わい、お開きとなった。

清水記

# 二年ぶりに開催したキタダケソウ観察会

二年振りのキタダケソウ観察会は、開山祭修了後、七月二日、三日の両日にかけて開催された。

タダケソウ観察会から帰って間もなく、清水准一さんから一枚のCDが手渡された。例年の集合写真に変えて、観察会に参加してくださった方に渡す記念品だという。数枚の写真で構成されたこの記念品のCDを見て、参加した方はきっと目を輝かせて見入ったに違いないと思った。

観察会前夜白根御池小屋で参加者の皆さんと交流し、キタダケソウに対する熱い思いを聞いていた。小屋の計らいて四時半からの朝食後早朝出発。大樺沢の雪渓を登り八本歯の梯子を攀じキタダケソウ観察会の目的地である北岳南東斜面を目指すが……。



この雪渓を登り！

トラバース道のキタダケソウは既に開花の時期を過ぎ、そのほとんどが結実か、葉を残すのみとなっていた。「開花を待つ淡いピンク色のつぼみから真っ白な花弁に変化していくキタダケソウの美しさを見てほしかった」当クラブの会員でもあり、山梨県希少植物観察員としてキタダケソウの保護活動をしている宮下さんの説明も少し残念そう。三〇分ほどを観察に費やし、その後昼食をとったあと、リーダーが皆に問い掛けた。山頂を経由して、肩の小屋経由での下山に変更してはどうかと。

理由は三つ。「規模は小さいが、山頂直下にキタダケソウの群生地があり、そこならばまだこの時期開花しているはずである」「大樺沢では、この冬、雪崩で遭難した妻を捜して、夫と所属する山岳会の数人が雪渓を掘り起こしている。観察会のメンバーの通過によって大樺沢に落石が起らないとも限らず、捜索のため雪渓を掘り起こしている人たちへの二次災害につながる可能性もある。」「多少厳しい歩きを強いられることになるが、十分に広河原発の最終バスに間に合う時間がある。」

ひとり一人の自己判断に任された。「キタダケソウに会いたい」とインターネットで南アルプス市のホームページにアクセスし、そこからこの観察会にたどり着いたという人、遠く山陰地方から参加している参加者等々、そして、何より私たちスタッフも、二年振りに開催されるこの観察会を待ち望んでいた。南アルプススーパー林道の

岩石崩落により通行止めになり、改修工事を行ったのち、マイカー規制を実施し、公共交通輸送に切り替えた。一年九月振りに開通した昨年は、キタダケソウの開花時期をとうに過ぎていて、観察会は見送った。今年是非キタダケソウを見せてあげたいと強い念に駆られる。

思ったとおり高い群生地は満開だった！



若干の引き返すという参加者に数名のスタッフが付き添ったが、おおかたの「山頂に行こう」「行きたい」というひととき大きな声の固まりは、熱意となり皆を山頂まで押し上げる。登りにまして、山頂に行こうと決めてからの歩みは百二十%増し。体への負担が大きく、楽しんでいただけだろうかと心配だった。しかし「咲いているぞう」の声に気持ちが一つになった。

山頂直下のキタダケソウのすばらしさは、言葉では言い尽くせない。キタ

標高の高くなった北岳山頂でみんないい顔



ダケソウは見事に開花を向かえ、また開花を待つ淡いピンク色のつぼみも宮下さんの言葉どおりそこにたたずんでいた。キタダケソウばかりではなく、夏の花々も私たちを迎えてくれた。「山頂まではもうすぐだ」

下山時刻が押ししていた山頂では、ただ写真をとるためにだけ立ち寄ったと言っても過言ではない。登頂を味わう間もない短い時間だったが集合写真の皆さんの満足げなこやかな表情を見て「きっと心に残る観察会だったに違いない」と自負し、また安堵した。

来年もキタダケソウが私たちスタッフと観察会の参加者をつなげてくれると信じている。

〈杉山 記〉

、山梨県観光キャンペーンの一環として南アルプス市から「つる払い」の出展及び公演がNPO芦安ファンクラブにより新宿京王プラザの二階ロビーで行われた。市観光課の依頼を受け、「ミニつる払い」の設計から資材の準備、下見、仮組み、ホテル側の確認等々の段階を踏み、前代未聞のパフォーマンスの準備が始まった。国際色豊かな場所に備え、開山祭の解説や、祈願文が英訳で標示された。事前の組立は六月九日に行われた。壁や床は大理石である為、丸太の組立には十分な注意を払い、通行する人々の視線を背中に感じながら、そこだけが別世界の空間になっていった。準備が終わり形が整うと大勢の人が解説を読みながらうなずいていた。

いよいよ当日、前もって最も時代にふさわしいとして人選された、宮下、清水(毅)、渡辺の三名が百年前の衣装を身にまとい伊東氏が打ち鳴らす勇壮な太鼓と共に入場すると、たちまち周囲は人垣が出来るほどになり、場は大いに盛り上がる。

祈願文を読み上げ、つるを束ねた縄を一気に切ると、場内から意味を理解した人々からいっせいに拍手が起こった。

初めての試みであったが、「文化は伝えなければ、誰も知らない。理解しあえて始めて交流が始まる」当たり前だが、こんな事柄を実感した数日間だった。

#### 清水 記

夏山シーズンの幕開けを告げる南アルプス開山祭が、七月二日午前十時から広河原アルペンプラザ広場で行われた。昨年、一昨年は南アルプス林道通行規制の関係で麓のこだま公園で行われたが、今年はシーズン始めの規制解除により本来の北岳を仰ぎながらの開山祭となった。

多くの来賓の出席と関係者の参加の中、まず石川市長から「マイカー規制も2年目を迎えた、入山者も環境配慮への規制に好意的であり、支持と協力を頂いている。南アルプス観光を市の基盤と位置付け、自然の美しさに癒やしを求めて訪れる観光客のニーズに応えていきたい。」との開山の挨拶があった。

芦安中学生による「北岳の歌」や「雪山賛歌」の合唱の後、先駆者をたたえ、遭難者の霊を鎮める献花が参加者全員の手で手向けられた。

勇壮な夜叉神太鼓の演奏の後、恒例の「つる払い」の儀式が行われた。

案内人には、今年の芦安地区会長伊東今朝次氏他二名が扮し、勢いよくつるを払い、本年の安全登山を祈願した。参加者はつるをくぐり、自らの安全登山を願った後、芦安そばの会「甲斐ヶ峰庵」による手打ちそばを味わい、お開きとなった。

#### 清水 記

# 第13回 南アルプス・芦安

参加者募集中

# 登山教室

甲府盆地の西の端に大きくそびえる南アルプス、その登山基地、山梨県南アルプス市芦安で活動している「NPO 芦安ファンクラブ」(代表 花岡利幸山梨大学教授)は、春と秋の年2回、初心者のための登山教室を開催しています。登山教室では、実践を通して、安全で楽しい登山をするための技術、地形や地質、動植物など登山に必要な知識を深めたり、山の天気や地図の読み方を学んでいます。

今回の登山教室は、秋紅葉の真っ只中、南アルプス北部、早川尾根の静かな山旅を楽しんでいただこうと予定しています。

参加者は1人でもグループでも受付けています。おおいにご参加ください。

みんなで楽しみながら学んで、登って、山の素晴らしさを実感しましょう。

◇ 日 時 / 平成17年10月 1日(土) 午後から ⇒ 10月 2日(日)

◇ 研修山名 / 早川尾根

北沢峠(2035m)→栗沢山(2714m)→アサヨ峰(2799m)→広河原峠(2344m)→ 広河原(1540m)

◇ 参加条件 / 健康で登山が可能な方

◇ 参加費 / ￥19,000 / 1人(宿泊費、食費、研修費、移動費、保険料を含む)

※予約金は不要ですが最終日以後の欠席はキャンセル料￥5,000をいただきます。

◇ 定 員 / 50名(先着順)

◇ 最終日切 / 平成 17年 9月 20日(火)

◇ 申し込み方法 / 電話またはFAX、官製はがきの

いずれかで下記のことを明示してお申し込みください。

(ア) 住所、氏名、年齢、電話番号

(イ) 登山経験のある方は「登った山の事など」

(ウ) 健康状態や気になる事

◇ 申し込み・問い合わせ先 /

南アルプス芦安山岳館

山梨県南アルプス市芦安芦倉1570番地

Tel 055(288)2125

Fax 055(288)2162



栗沢山から見る甲斐駒ヶ岳(5月)



主催 / NPO 芦安ファンクラブ、南アルプス芦安山岳館  
後援 / 山梨県山岳連盟 NPO 日本高山植物保護協会 (JAFPA)